

令和3年度 社会福祉法人宰府福祉会 事業報告

1.総括

令和3年度の法人事業運営は、最終年期間となる中期経営計画を基に、その基本方針及び重点目標の達成を目指して、法人本部及び各拠点施設がそれぞれの地域の中で取組みを進めてきました。しかし、コロナ禍の影響もあって、各事業の推進や利用者サービスの実施を充分実行する事が出来ませんでした。

新型コロナウイルス感染に関しては、非常事態体制本部の準備及び設置を繰り返しながら、感染防止に努めてきました。しかしながら、各拠点ともに利用者や職員の感染が判明し、数日間の活動休止をいたしました。いずれもクラスターにまでにはなりませんでしたが、

入所支援や地域生活支援の充実を図るための施設整備については、土地開発工事の遅れや入札の準備等が順調に進まず、全体が遅れ、宰府園作業棟等増築工事の完成が令和4年6月末の予定になりました。地域生活支援センターの整備についても準備が遅れている状況です。

利用者サービスの質の向上については、「相談・説明・連絡等のコミュニケーションに関するアンケート調査」を実施することができました。令和4年度にその改善に向けて取り組んでサービス向上に努めることにしています。

人材確保と職員育成・職場環境の改善等については、同一労働と同一賃金等の法改正への対応等のため、就業規則及び給与規程、人事等の見直しを行う事ができました。また、人材確保については、県社協の「福祉の仕事就職フェア、ウェブ面談会」、その他のウェブ説明会や大学・専門学校等の巡回求人を行い、各拠点共に十分ではないが職員配置の確保をすることができました。

各拠点事業の稼働率は、すみれ園と生活支援センターにじ、宰府園の通所がコロナ感染による休園のために減少しました。利用定員の充足率は宰府園の入所がコロナ感染防止のため、一時期制限していたため減少しました。

経営状況については、事業の稼働率や定員の充足率の減少のため、障害者自立支援費等収入は昨年と比べ減収となっています。人件費、事業費、事務費の費用合計は増額となりました。

令和3年度の事業推進につきましては、利用者ご家族をはじめ多くの皆様のご協力によって、なんとか推進することができました。次年度もコロナ禍の厳しい状況が予測されますが不断なく事業の推進に努めてまいります。

令和4年3月

理事長 草本 武俊